

令和5年度 生徒・保護者を対象とする学校評価アンケート結果 解説・補足

<生徒を対象とするアンケート>

- 令和3～5年度、いずれも7月中旬に HR の時間にフォームズを用いた形式で実施した。
回答者数は、令和3年度35人、令和4年度30名、令和5年度25名である。
比較のためにグラフは母数を100%として表している。回答者数はグラフ中に表記した。
- 令和5年度の回答傾向として、「わからない」を選択する生徒が増えた。
そのため、肯定群「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が減ったかのように見えるので、注意を要する(例 質問8、11、15、24)。
「わからない」が過年度より顕著に増えたのが、質問13、16、19、20、22である。質問13は率直に「わからない」と思われる。質問19、20、22 のような項目について判断がつかないという状況は問題である。「わからない」=「浸透していない」という姿勢で受け止め、改善したい。
- 否定群「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」が顕著に減少したのは、質問4、17、23、28、29である。
質問4は保護者アンケートと若干齟齬はあるが、概ね配付文書は保護者に届いているようである。
質問17、23は否定群が減ったことは評価できるが、肯定群の割合に変化はない。
- 否定群が顕著に増加したのは、質問12である。
質問12については、この質問だけが「本校では、体罰はない」と否定形になっており、構文上の誤りで回答した可能性が否めない。別の調査では、体罰に係る回答はなかった。
- 肯定群と否定群が拮抗しているのが、質問27と30である。生徒会活動とボランティア活動の活性化が課題になっていることの現れだと考える。

<保護者を対象とするアンケート>

- 令和3～5年度、いずれも7月の三者懇談期間にフォームズを用いた形式で実施したが、令和3年、4年は懇談会の際に対面で回答をしていただいた。令和5年は、依頼文書を配付して7月12日(水)～7月21日(金)に各自で回答していただいた。
回答者数は、令和3年度34人、令和4年度31名、令和5年度11名である。
比較のためにグラフは母数を100%として表している。回答者数はグラフ中に表記した。
- 令和5年度の回答傾向として、令和3年度、4年度に比べ、全体的に肯定群における強い肯定「よくあてはまる」の割合が増えていることが挙げられる。調査方法の変更、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う学校行事再開とPTA活動の活発化等も影響しているかもしれない。
- 否定群が比較的多いのは、質問5である。生徒の回答と齟齬がある。
- 「わからない」が比較的多いのは、質問16、17、18、23、24、28、30、32である。生徒と同様に率直にわからないと思われる項目もあるが、浸透していなかったり、取組が不足していたりする項目もある。特に質問16、23、24、30は、特に留意したい。